

CSRレポート 2026

かぎりあるものを、
かぎりなく



かぎりあるものを、かぎりなく

COCO

株式会社 こっこー

ー トップメッセージ

資源循環で街を支え 次の100年も地域に 必要とされる企業へ

代表取締役社長

榎岡 達也



75年積み重ねた信頼を糧に「かぎりあるものを、かぎりなく」を次世代へ

歩みを支えてくださった、 すべての大切な人へ

こっこは今年、設立75周年という大きな節目を迎えました。広島の地で、お取引先や地域の皆さまとひとつずつ積み重ねてきた信頼こそが、私たちの何よりの財産です。現場で汗を流す社員一人ひとりと、それを支えてくださる全てのステークホルダーの皆さまに、心より感謝申し上げます。

私が最も大切にしているのは、当社に関わるすべての人を幸せにすることです。本レポートは、私たちが社会へ貢献し、皆さまの幸せを追求してきた軌跡を、真摯にお伝えするものです。

社会の変化を追い風に いま、リサイクルは「守る」から「創る」へ

近年、脱炭素社会の実現やサーキュラーエコノミー（循環経済）への転換など、企業に求められる役割は大きく変化しています。こうした変化に幅広く対応するため、私たちは戦略的なチャレンジをしています。既存のリサイクル事業では、新設備の導入による取扱品目の拡大に加えて、より細かな素材の選別でリサイクル率の向上を追求。さらに、土木・解体・不動産分野へも参入し、事業を多角化することで循環の促進を図っています。建材・景観事業においても環境配慮商品の拡販を進めるなど、社会のニーズに応える体制を整えています。

「捨てる」を「資源」に変える 動脈と静脈をつなぐ、こっこの使命

戦略の核心は、スローガンである「かぎりあるものを、かぎりなく」を社会へ実装することにあります。その鍵となるのが、製造（動脈産業）と再資源化（静脈産業）が一体となる「動静脈産業」としての高度な連携です。廃棄物を再び高品質な国内資源として製造現場へ還す「水平リサイクル」も推進しています。この循環の輪を太く、速く回すことは、循環型社会への最大の貢献であり、当社の成長エンジンそのものです。

また、地元教育機関への出張授業や工場見学の受け入れ、小・中学校キャリア教育の副教材への掲載などを通じた「次世代への意識づけ」は、未来を共に創るパートナーを育てるプロセスであり、私たちの存在価値でもあります。そして、事業活動のすべてを社会貢献に直結させ、持続可能な未来を切り拓くことが、私たちの提供価値です。



100周年へ 地域のインフラとして挑戦を止めない

2051年に迎える設立100周年に向けて、私たちはこれからも地域社会とともに歩み続けます。社員一人ひとりが誇りを持って働き、地域や社会に価値を提供し続けることが、持続可能な社会の実現につながると信じています。資源循環を通じて地域と社会を支えるインフラ企業となることを目指し、本レポートに記した取り組みを真摯に積み重ねていきます。

※脱炭素社会

地球温暖化の原因となるCO₂（二酸化炭素）などの温室効果ガス排出量を、森林吸収量や技術的な回収量と差し引きして「実質ゼロ（カーボンニュートラル）」にする社会。

※サーキュラーエコノミー

製品や資源を廃棄せず、再利用やリサイクルを通じて価値を循環させ続ける新しい経済システム。



目次

Section I こっこの志 [導入・経営姿勢]

- 02 | 代表取締役メッセージ
- 04 | 目次・会社概要 / 75 年の歩み

Section II 生かす、創る、巡らせる [戦略・事業紹介]

- 06 | こっこの目指す先 (サステナビリティ方針)
- 08 | 循環型インフラを支える、私たちの事業展開
- 10 | 地域に寄り添い、くらしに根ざす私たちの取り組み

Section III 地域と地球への約束 [活動報告]

- 12 | 資源循環と環境技術の最前線
- 14 | 地域の復旧・復興を支える使命
- 15 | 持続可能なまちづくりへの挑戦
- 16 | 地域や社会と共に歩む、私たちの取り組み
- 18 | 公式マスコットキャラクター「ここぴーず」誕生
- 19 | キービジュアルに込めた想い
- 20 | 社員が働きやすい職場づくり
- 21 | 社員インタビュー

Section IV 誠実な歩みの証 [ガバナンス・データ]

- 22 | 持続可能な社会を支える経営基盤と安全の追求
- 24 | 事業価値の向上と持続可能な財務基盤の確立
- 26 | サステナビリティ・データ集
- 28 | 裏表紙

会社概要

商 号	株式会社こっこー
代表取締役	槇岡達也
本社所在地	広島県呉市広多賀谷1丁目9番30号
資 本 金	9,900万円
設 立	1951年6月

地域に根差し、資源の価値を最大化し続けた75年

① 1951年 ▶ 1973年 地域産業の基盤を支える

呉市で産声を上げ、製鉄所や自動車メーカーといった地域基盤産業の足元を支えた創業期。

- 1951 国興産業株式会社 設立 (呉市)
- 1952 日亜製鋼株式会社 (現・日本製鉄株式会社) 内へ事務所開設
- 1970 東洋工業株式会社 (現・マツダ株式会社) 内へ事務所開設



創業者 槇岡 辰男

② 1974年 ▶ 2010年 建材・鋼材の生産体制の強化

「捨てる」を「生かす」へ変える。製造販売にも注力し、中国・四国エリアへ拠点を拡大。加工から再資源化までを一貫して担う独自の体制を構築。

- 1961 呉市に製缶工場を建設し鋼材事業を本格スタート
- 1966 建材部を開設し建材事業をスタート
- 1972 本社工場 (呉市) に折板屋根成形機・製管機・剪断機を設置
- 1974 東広島工場 (現・東広島リサイクルセンター) 開設
- 1988 三和シャッターの子会社「三和エクステリア」との合併会社を設立し、エクステリア事業を本格スタート
- 1998 広島・四国加工センターを開設
「製販一体」の供給体制を強化
- 2010 ガラス再資源化プラント導入



製管機・剪断機

③ 2011年 ▶ 現在 高度循環社会の実現とグループ共創

設立60周年を機に社名を変更し、企業理念を刷新。太陽光パネル処理など、社会的課題に挑む技術集団を目指すとともに、新たに土木・不動産分野にも参画。住まいと資源のサイクルをトータルで支える体制へ。

- 2011 「株式会社こっこー」へ社名変更
企業理念・行動指針を再定義
- 2018 一軸破碎機を導入。リサイクル品目拡大へ
- 2019 大鉄産業株式会社を子会社化
- 2020 株式会社村上工務店を子会社化
- 2022 太陽光パネルのリサイクル処理設備導入
堅型破碎機を導入。金属スクラップの高度選別が可能に
- 2026 完全子会社 株式会社こっこー不動産を設立
地域に必要とされる領域をさらに拡大



堅型破碎機

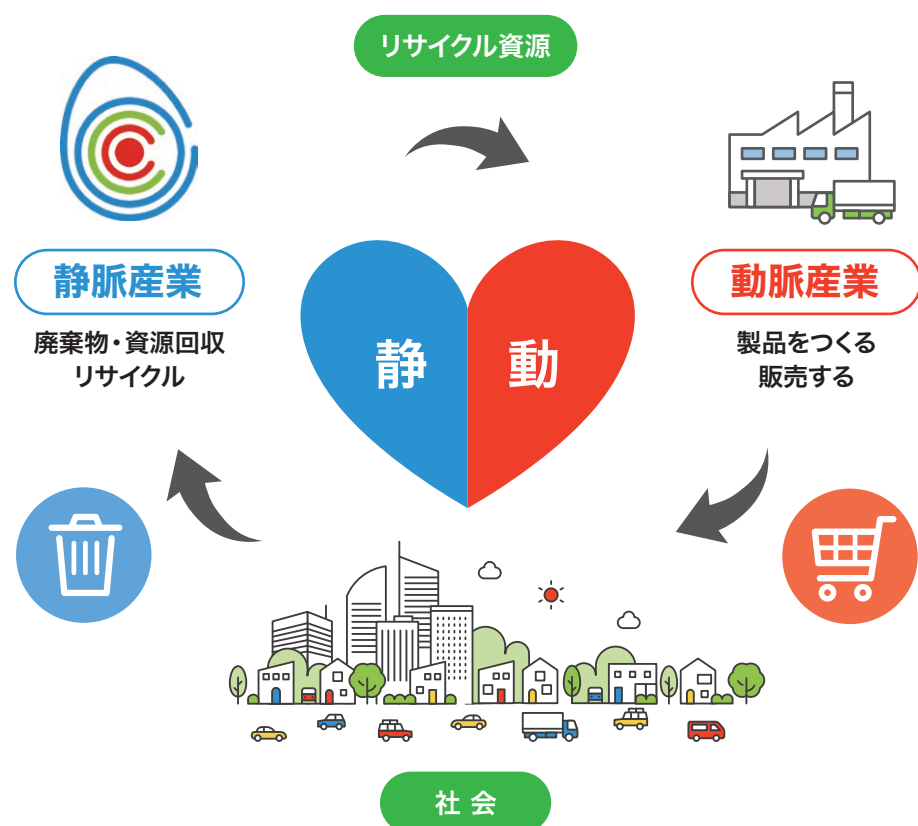


太陽光パネルのリサイクル処理設備

「かぎりあるものを、かぎりなく」を新たな日常へ

こっこーが果たすべき責任とサステナビリティ方針

設立から75年間、私たちは街の「静脈」として、廃棄物を再び資源へ再生する役割を担ってきました。大切にしてきたのは、企業理念である「人に心地よい環境をつくり、資源を持続的に活かし、地域と共に成長する」ことです。積み重ねた知見にAIやDXを掛け合わせることで、街の循環サイクルをさらに進めます。資源循環を加速させ、次世代の街をつくる。私たちは地域になくてはならない「循環型インフラ」として、持続可能な未来を実装していきます。



動脈産業 資源から製品を生み出し、社会の活力を支える産業

静脈産業 不要になったものを回収し、再び資源として戻す産業

サーキュラーエコノミーを実現するための**不可欠なインフラ**

「動脈」と「静脈」をつなぎ、地域と共に巡る未来へ

街の快適を裏側から支える、多角的なアプローチ

私たちが解決したいこと [マテリアリティ]

- 1 **資源の国内循環** 技術革新で資源を未来へつなぐ
- 2 **地域インフラの維持** 持続可能な街を支える
- 3 **当社に関わるすべての人を幸せにする** 快適に暮らし働ける環境を

関わるすべての人へ、心からの「快適」を届けるために

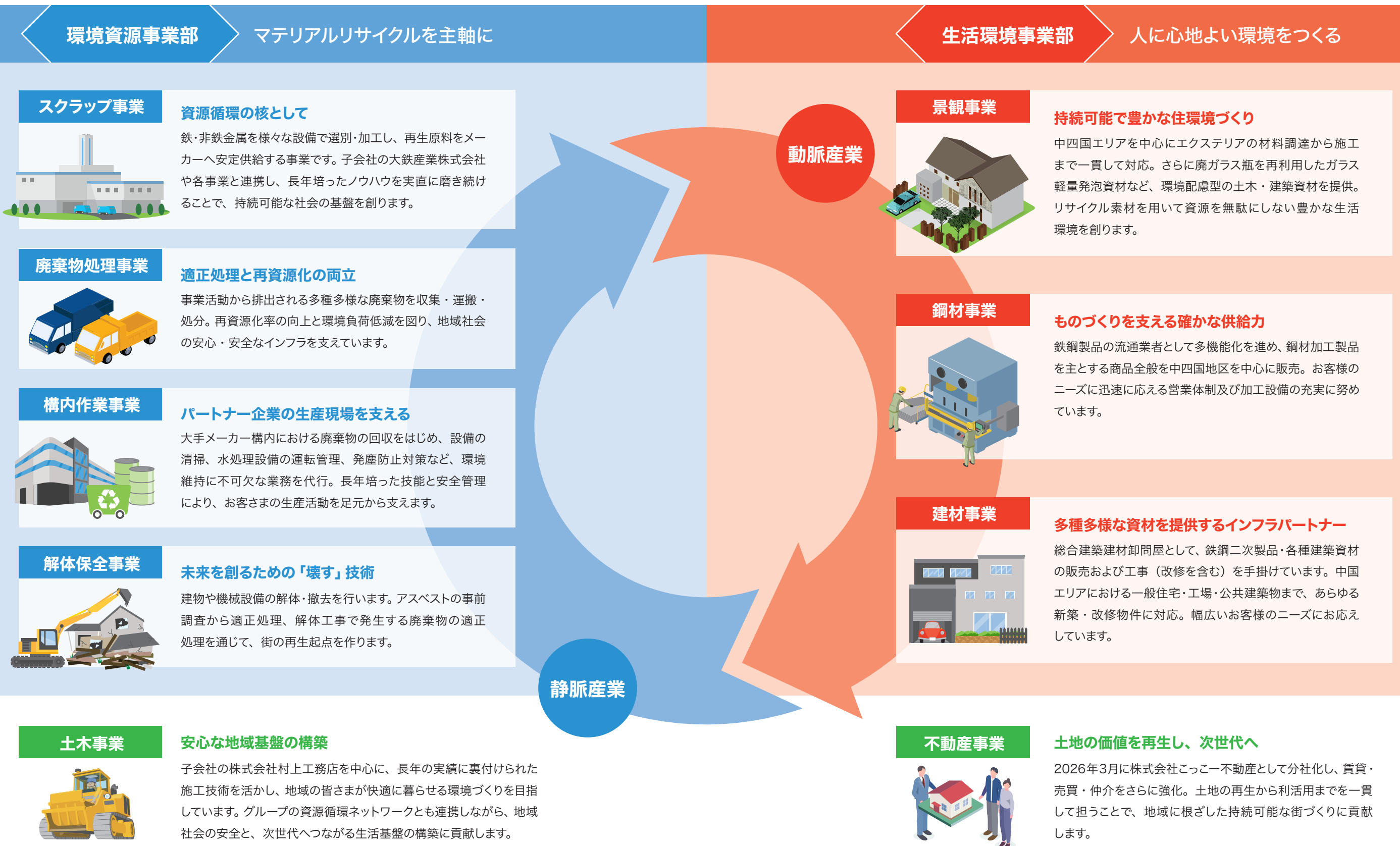
私たちの役割は、エクステリア・鋼材・建材の供給から、解体・リサイクル、不動産までを自社で完結させる「循環型インフラ」として地域を支えることです。

75年培った技術を礎に、供給（動脈）と再資源化（静脈）を高度に連携させる独自の仕組みを構築しました。このワンストップの機能を地域へ実装することで、資源を循環させ、持続可能な街の基盤を築いてまいります。これらの取り組みによって実現を目指すのは、**当社に関わるすべての人に、心から「快適」と思える暮らしを届けることです。**街の代謝を止めず、誰もが幸せを実感できる社会を次世代へつないでいく。それこそが、私たちの存在意義です。



循環型インフラを支える、私たちの事業展開

当社は「環境資源」「生活環境」の両事業部門を軸に、独自の資源循環モデルの確立を目指しています。建造物の解体から廃棄物の適正処理、再資源化、そして新たな資材供給や不動産活用までを一貫して担う「ワンストップ体制」こそ強みと確信しています。これにより、廃棄物を価値ある資源へと生まれ変わらせ、地域社会の持続可能な未来を支えます。



地域に寄り添い、暮らしに根ざす私たちの取り組み

太陽光パネルの再資源化：2030年問題を見据えた循環モデルの構築

2030年以降に予測される「大量廃棄時代」を見据え、株式会社スナダ、中電プラント株式会社、中国電力株式会社および当社は、リユース・リサイクルに関する業務提携を締結しました。使用可能なパネルを独自基準で選別し、リユースパネル発電による再生エネルギー製造に寄与。再利用困難なものは高度な技術で資源化することで社会課題の解決を先導し、クリーンエネルギーの持続可能な未来を支えます。



ただ壊すのではなく、資源循環を両立させる「こっこ一流」解体

建物の取り壊しに留まらず、持続可能な社会に向けた資源循環を推進しています。現場から発生する廃材を単なる「廃棄物」とせず、木くずは破碎しバイオマス燃料へ、金属類は鉄・アルミ・銅などへ選別・加工し再資源化。自社での処理を拡大し、最終処分量の削減と環境負荷の低減に取り組み、循環型社会を実現します。

社員の実体験から生まれた、寄り添い型の墓地リフォーム事業

高齢化が進む地域の課題解決の一環として、「みなし墓地※」を中心とした改修を展開しています。本事業は、社員が自身の家族のために行った「高齢の母でも安心してお参りができる環境づくり」という実体験から誕生しました。雑草対策や段差解消といったきめ細やかな施工を通じて、快適なお墓参りをサポート。世代を超えた地域コミュニティ基盤の維持に貢献します。



※みなし墓地 古くから地域で管理され点在する墓地。現在は高齢化に伴う管理不足が地域課題となっている。

廃ガラスから生まれた、地球に優しい多機能型リサイクル資材

廃ガラス瓶を再利用したガラス軽量発泡資材は、多孔質構造で透水性・保水性・通気性に優れているうえ、軽量であるのが特徴です。その多様な機能性から、土木や建築、農業など幅広い分野に用いられています。廃棄物を高付加価値な資材へと転換することで、環境負荷の低減と資源の有効活用を同時に実現しています。

意匠性と環境配慮を両立した、カーポート屋根材の製造・販売

シックな黒基調の住宅トレンドに応え、カーポート屋根材「両面ブラック折板」を中四国の拠点で展開しています。金属製折板の熱カット特性により真夏の車内温度上昇を抑制し、冷房負荷（CO2排出）を低減。さらに、近隣への太陽光反射を回避することで、良好な近隣関係を築ける住まいづくりをサポートします。



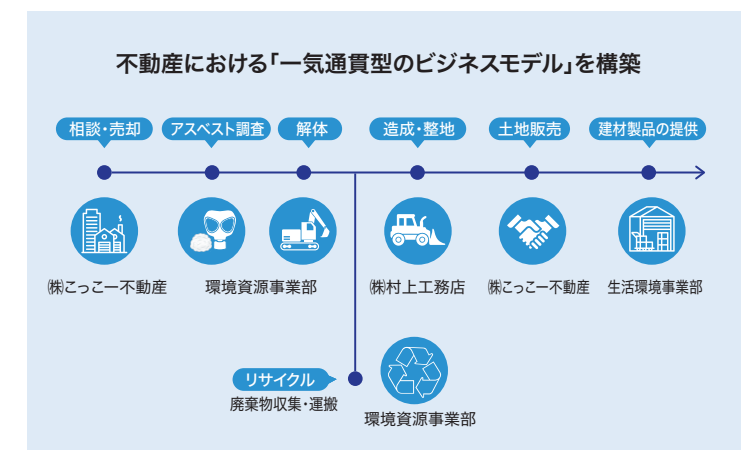
防音壁による騒音低減対策

黒瀬リサイクルセンターなどの拠点において、近隣住民・企業の皆さまへの配慮として、事業所境界へ防音壁を設置しています。地域とともに歩む企業として、騒音低減に向けた環境整備を行っています。



100%出資子会社「株式会社こっこー不動産」を設立

事業特性に即した機動的な経営体制を構築し、より高い付加価値を提供するため、2026年3月11日に不動産事業を分社化しました。グループの強みである解体やリサイクル技術とのシナジーを活かしながら、土地の有効活用から住まいづくりのサポートまで、地域に根差したサービス品質の向上に取り組んでまいります。



資源循環と環境技術の最前線

～脱炭素社会の実現と、高度な資源循環の両立を目指して～

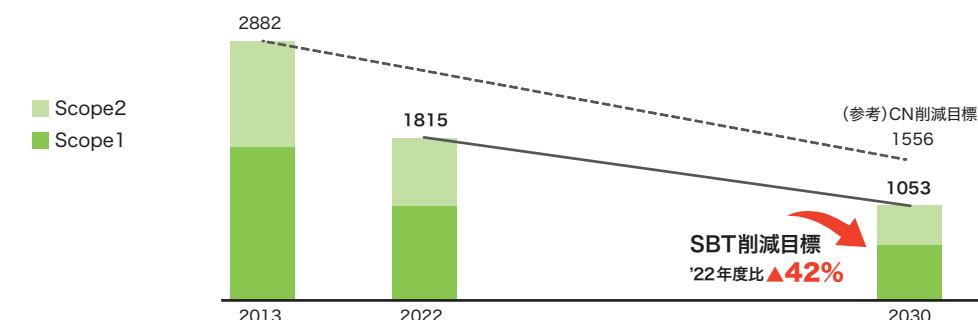
脱炭素社会の実現に向け、2022年度にカーボンニュートラル(CN)達成目標を策定しました。2023年度には、国際的な環境基準である「SBT※」認定を取得。これは、当社のCO2削減目標(2030年までに2022年度比42%削減)が「パリ協定」の求める水準と整合していると認められた証です。

今後はエネルギー管理システム(EMS)の導入や高効率設備への更新に加え、グリーン水素や燃料電池といった次世代エネルギーへの転換を推進します。さらに、自社(Scope1・2)だけでなく、サプライチェーン全体(Scope3)の排出量削減にも取り組み、地域社会の脱炭素化を牽引していきます。

※SBT (Science Based Targets)
世界の気温上昇を1.5℃に抑えるため、企業が科学的根拠に基づいて設定する温室効果ガス削減目標。



GHG 排出量の推移と目標 (t-CO2)



CO2排出量 t-CO2	2013年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年 (実績)	2025年 (実績)	2030年 (目標)
Scope1	1,716	1,056	1,259	1,317	613
Scope2	1,165	759	649	233	440
合計	2,881	1,815	1,908	1,550	1,053

GHG 排出量：地球温暖化の原因となる「温室効果ガス (Greenhouse Gas)」が大気中に放出される量

CO2 フリー電力の活用

広島県内3つのリサイクルセンターを含む、中四国6事業場の受給電力を、CO2フリー電力へ切り替えました。これにより事業活動で使用する電力の92.2%が再エネ由来となり、年間約450トンのCO2排出量削減を見込んでいます。



「CE チャレンジーズ」との連携

製造・リサイクル企業6社(三協立山株式会社、株式会社アビツ、株式会社イボキン、オリックス環境株式会社、株式会社HARITA、当社)が連携する「サーキュラーエコノミーチャレンジーズ(CEチャレンジーズ)」に参画し、アルミサッシの**水平リサイクル**を加速させています。中四国エリア回収・選別を一手に担い、再生アルミの活用を後押しすることで、新地金からの製造と比較して**CO2排出量を約97%削減する**という、極めて高度な資源循環の実現に挑んでいます。



中四国初の最新設備で、廃棄物を資源に変えるスピードをあげる

2026年11月の全面設備稼働を目指し、東広島リサイクルセンターの大規模リニューアル工事を進めています。新たに建設する「がれきヤード」にはメタルソーターを有する光学選別ラインを設置し、ギロチンダスト※等からの金属選別や、解体工事等から発生する建設系混合廃棄物処理を開始します。

これにより、リサイクル率の大幅な向上と作業工程の効率化を実現します。また、埋立処分量を最小限に抑えることで、埋立処分場のひっ迫という社会問題の解決にも貢献します。これからも地域の廃棄物処理を担う企業として、最新鋭のインフラ整備を通じて脱炭素社会と地域環境の保護に注力してまいります。

同センター内には鉄・非鉄金属を受け入れる「鉄・非鉄ヤード」や段ボール・新聞・雑誌等の古紙類全般を受け入れる「古紙ヤード」も併設。地域のあらゆる資源循環を支える総合拠点へと進化していきます。

※ギロチンダスト スクラップ業者特有の産業廃棄物。金属スクラップを大型切断機(ギロチンシャー)などで加工・選別する際に発生する、微細な金属類、廃プラスチック類、ガラスやくずなどが混ざり合った廃棄物のこと。



新事務所・がれきヤード(混合廃棄物処理ヤード)
※完成イメージ図



東広島リサイクルセンター



地域の復旧・復興を支える使命

西日本豪雨災害の対応

2018年7月の豪雨災害により地元・呉市が甚大な被害に見舞われるなか、発災直後から業界団体の一員として災害廃棄物の受け入れを支援しました。その後、呉市より仮置場の運営および処理業務を受託。想定を超える廃棄物量や複雑な工程管理といった課題に対し、当社は行政および地元・県外企業と連携し、延べ22ヶ月にわたり復旧活動に尽力しました。自社の選別・処理施設もフル活用し、2020年3月に全量処理を完遂し、翌月には仮置場の整地までを完了させました。「一刻も早く地域の力になりたい」という社員の強い使命感と、地域が一体となったこの迅速な対応は、当社の原点である「資源循環を通じた社会貢献」を体現する活動となりました。



作業中



整地完了

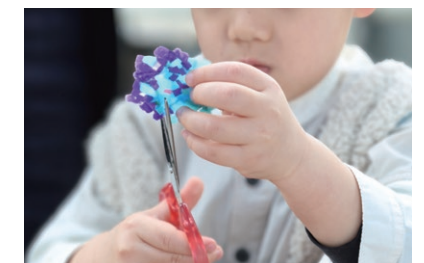
持続可能なまちづくりへの挑戦

当社は地域との絆を深め、次世代に資源の重要性を伝える活動を強化しています。

■ スポーツで街を綺麗に

2025年11月、環境美化をスポーツ感覚で楽しむ「スポGOMI大会 in 呉」を主催。

127名の参加者と共に**117.14kg**のゴミを回収しました。参加者からは「一度参加するとポイ捨てはなくなると思う」との声もありました。2026年10月の地域イベント「くれエコフェスタ」でも開催を予定しています。



■ 地域イベントでのアップサイクル体験

地元の高校生・大学生が主体となって企画・運営するイベント「KURE 未来 FESTA」では、ペットボトルキャップのアップサイクル体験ブースを出展。「ゴミとして捨てられるものが、自分たちの手で新しいものに生まれ変わる」驚きと喜びを体験いただきました。

工場見学の積極的な受け入れ

リサイクルへの理解を深める「学びの場」として、工場見学を積極的に受け入れています。昨年度は地元の小学生から行政関係者まで幅広くご来場いただき、選別技術や資源循環のプロセスを間近で体感していただきました。迫力ある重機の動きや、手作業での細かな選別風景を公開することは、当社の事業への信頼に繋がると考えています。見学した子どもたちからは「自分たちにできることをやっこうと思った」といった感想も寄せられています。



工場見学の様子



地域や社会と共に歩む、私たちの取り組み

世界へ届ける、資源循環のノウハウ

独立行政法人国際協力機構（JICA）を通じ、開発途上国の行政担当者に対する「道路維持管理研修」に協力しています。廃ガラスから製造する軽量発泡資材を中心に、土木分野での活用事例や施工の留意点を共有。現地のインフラ整備や国境を越えた資源循環モデルの構築に寄与しています。



JICA 研修・工場視察の様子

次世代の育成

江田島市・呉市の小中学校副教材「お仕事ノート・お仕事ブック」への参画や、地域の学校を対象とした「出張授業」を実施。リサイクルの仕組みや働くことの意義を分かりやすく伝えることで、子どもたちが環境について自分事として捉える機会を提供しています。



出張授業



小学生用



中学生用

一人ひとりの「発想と挑戦」が、会社の未来を創る

ボトムアップで新たな価値を作る「社内ビジネスアイデアコンテスト」

当社は現在、トップダウンからボトムアップへと組織のあり方を変えていく過程にあります。その試みの一つとして、2023年にスタートしたのが「社内ビジネスアイデアコンテスト（ビジコン）」です。書類審査と役員への最終プレゼンを経て、最優秀と認められたアイデアには賞金10万円が贈られるほか、事業化に向けた検討が行われます。過去3回の開催で266件ものアイデアが集まり、「墓地リフォーム事業（P.10、2025年1月始動）」もそこから実装されました。この他、3件のアイデアを検証中です。

参加者たちは、「温めていたアイデアを形にする良い機会になった」「経営陣の前で直接思いを伝えることができた」とコメントしています。これからもビジコンを通し、誰もが気兼ねなく意見を出し、全社員で会社を創って行ける環境づくりを進めていきます。



第3回ビジコン最終プレゼン参加者



プレゼンの様子

AI活用研修で自社の強みを再定し、価値創造を加速

変化の激しい時代に柔軟に適応し、新たな価値を創造するため、2025年11月にAI活用研修を実施しました。単なる効率化に留まらず、AIとの対話を通じて「自社の強み」を多角的に俯瞰。その成果を社内外へ共有する象徴として、マスコットキャラクターの制作にも挑戦しました。AIを活用することで定型業務を効率化し、社員がより創造的な業務に注力できる環境を目指します。



Webでの研修の模様



ワークショップ

公式マスコットキャラクター「ここぴーず」誕生

当社の事業は一般の皆さまの目に留まる機会が少ないからこそ、すべてのステークホルダーの皆さまと深くつながるためのコミュニケーションの要が必要 — そんな思いから、初の公式マスコットキャラクター「ここぴーず」が誕生しました。

当社のコーポレートカラーをまとった3匹のキャラクターは、単なるマスコットではなく、社員の想いと次世代への挑戦を象徴する存在です。彼らを通して、より一層身近で、皆さまに愛される企業を目指してまいります。



ネーミングについて

キャラクターの命名では、社名「こっこー」との親和性を重視。「ー(伸ばし棒)」を入れることで、社名と同じリズムや響きを持たせ、親しみを感じていただけるようデザインしました。

キャラクター誕生の背景 — AIを活用して、アイデアやコンセプトを表現する

次世代のDX推進を見据えたAI研修(P.17)から、このキャラクターは誕生しました。単に最新技術を学ぶだけでなく、社員一人ひとりが当社の事業コンセプトをロゴ・コーポレートカラーとリンクさせながらどう表現するかを追求しました。最新技術と社員の想いが化学反応を起こして生まれた、新しい挑戦の証です。

キービジュアルに込めた想い

社会への貢献と存在意義

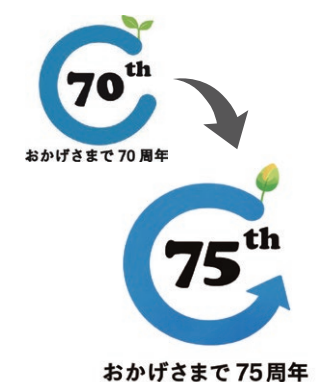
ビジュアル全体の構図は、当社のロゴマークであり、再生の象徴でもある「卵」の形をモチーフに描かれています。「あらゆるものを再び生かす」という原点の想いを込め、資源がめぐる姿を描き出しました。また、大切に紡いできたスローガン「かぎりあるものを、かぎりなく」に加え、事業の本質を表す「生かす、創る、巡らせる。」という言葉を加えています。



芽から蕾へ、そして未来へ — ロゴで辿る5年の歩みと進化

設立75周年の記念ロゴ(右)は、これまでの成長とこれからの進化を表現しています。5年前の70周年ロゴ(左)の際に上部へ小さく息吹いた芽が、今まさに花開こうとする力強い蕾へと成長を遂げました。さらに、ベースとなる青い円は、未来へ向けてさらなる資源の循環(ループ)を生み出していくという決意を込め、力強い矢印の形へと進化しています。

この先もまだまだ成長を続け、地域社会に豊かな花を咲かせる。これらのシンボルを旗印に、次の未来へ向けて力強く歩みを進めます。



社員が働きやすい職場づくり

2026年4月より、「COCCOのたまご支援制度」を導入しました。奨学金返還・車両購入・親孝行支援の3つから選べる独自の仕組みで、若手社員の自立と成長を後押ししています。

プライベートとの両立も大切にしており、くるみん※1 認定企業として男女ともに育休取得率100%（2025年度）の実績をはじめ、理由を問わない短時間勤務など、柔軟な働き方ができる環境を整えています。がん検診を含む定期健康診断など健康面の支援も充実しており、2026年には健康優良法人ネクストブライツ1000※2にも認定されました。



こっこーのたまご支援制度



広島県
働き方改革実践企業



くるみん



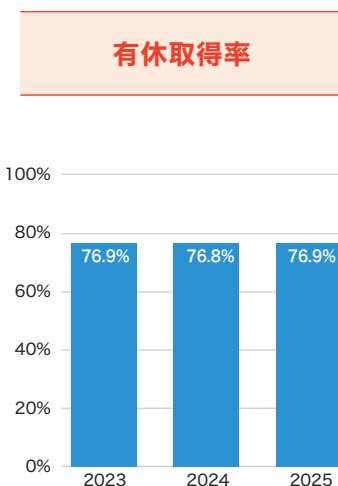
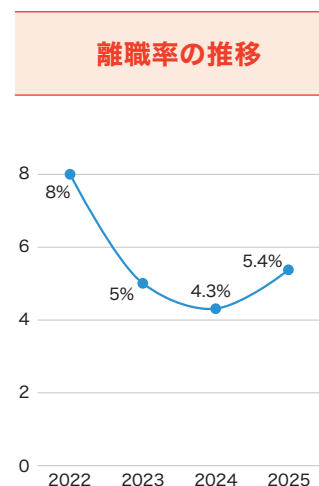
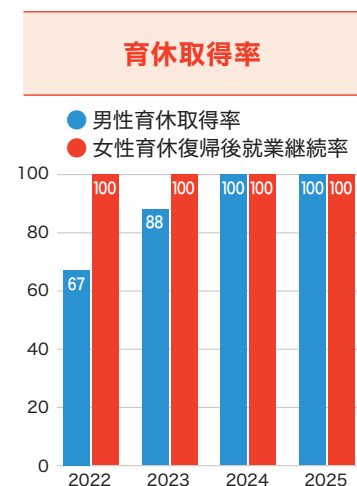
健康優良法人
中小企業部門
ネクストブライツ1000

※1 くるみん

厚生労働大臣の認める「子育てサポート」企業

※2 健康優良法人ネクストブライツ1000

健康経営優良法人認定制度（経済産業省・日本健康会議）の中小規模法人部門のうち、ブライツ500に次ぐ上位 501～1500位の企業に与えられる認定



社員インタビュー

価値を見出し、「会社をデザインする」仕事

企画管理本部 | 青木 みのり

私の業務は新規事業企画や広報、デザインなど多岐にわたりますが、根底にあるのは「価値を見出し、筋道を立てて伝える」ことです。どこにどのような情報があれば目を惹けるのか、何を伝えれば人の心に響くのかというデザインの視点は、あらゆる仕事で活かすことができます。

先日、社内ビジネスアイデアコンテストから念願の新規事業が誕生しました。企画から携わった一員として感動もひとしおです。これからもデザインを通して社内外に新たな変化をもたらしていきたいと思います。

素顔の一言 最近は着物のリメイクに夢中。古着店での衝動買いが続き、部屋が片付かないのが悩みです。



「綺麗になった、ありがとう」お客様の笑顔が挑戦の原動力

生活環境事業部 営業 | 石田 瀧也

エクステリア商品の施工後、お客様から「すごく綺麗になった、ありがとう」と言っていた瞬間が一番のやりがいです。それぞれ異なる土地の条件に対し、難しい納まりに挑戦する日々ですが、知識不足で壁にぶつかることもあります。そんな時、先輩や職人さんからの的確なアドバイスに何度も救われました。多くの人に支えられ、お客様の理想を形にできるこの仕事に誇りを持っています。

素顔の一言 残業が少なく休みもしっかり取れるため、家族との時間を大切にできる温かい職場です。



「かぎりあるものを、かぎりなく」現場から体現する資源循環

資源循環事業部 技術 | 扇元 孔明

産業廃棄物やスクラップの解体・選別・加工を担当しています。不要になった物が、自分の手を通して再び資源へ生まれ変わる。まさに当社のスローガンを体現していると実感できるのが、この仕事のやりがいです。

業務ではコミュニケーションを大切に、お客様や仲間と良い関係を築いていけるよう心がけています。変化を恐れず挑戦し続ける会社と共に、私自身も固定観念にとらわれず成長していきたいです。

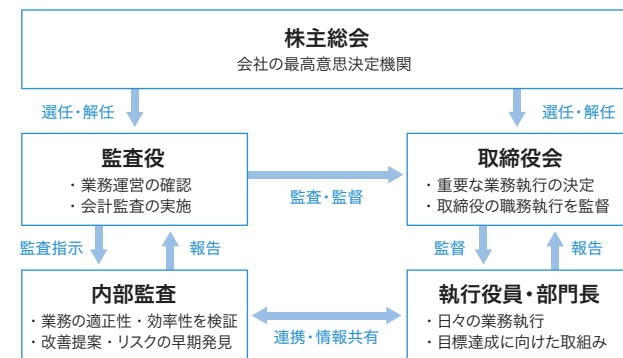
素顔の一言 音楽鑑賞が趣味で、昭和から令和までジャンルを問わず聴きます。良い曲に出会うと、ついリピートが止まりません。



持続可能な社会を支える経営基盤と安全の追求

迅速な意思決定と透明性の確保

当社では、透明性の高い経営と迅速な意思決定を両立させるガバナンス体制を構築しています。経営の中核を担い、機動的な判断を行う役員会を月2回開催。また、各事業セグメントで策定した戦略を、月例の経営戦略会議で進捗管理しています。さらに、年2回社長自らが各拠点を巡回し、経営方針を直接社員へ説明。トップの意向を現場まで迅速かつ確実に浸透させることで、組織一丸となった事業運営を推進しています。



役員一覧



代表取締役
模岡 達也



取締役
西川 嘉人



取締役
日山 健一



監査役
模岡 充浩

リスク管理・コンプライアンスへの取り組み

コンプライアンスの強化と適正な会計処理を担保するため、社外の専門家（社会保険労務士・税理士・弁護士）と顧問契約を結び、多角的な助言を受けています。また、内部監査と業務監査を年1回実施し、問題の早期発見と是正につなげています。

法改正への対応は企画管理本部が主導し、社内掲示板やポータルサイト等で速やかに全社周知を行うほか、ハラスメント相談室と内部通報制度の整備等により、社員一人ひとりが誠実に行動する環境を大切にしています。

安全の追求

社員の安全と健康を最優先に掲げ、経営者や管理者、産業医による現場パトロールを通じた改善活動を徹底しています。

現場におけるリスク低減への取り組みとして、化学物質を取り扱う作業では、SDS（安全データシート）教育の実施、リスクアセスメント（RA）の徹底、および適切な保護具の着用による適正管理を推進。また、産業廃棄物処理のプロセスにおいては、排出事業者さまをはじめとする外部からの現地確認を積極的に受け入れ、その適正な管理体制に対して高い評価をいただいています。

交通安全の面では、全車両に通信機能付きドライブレコーダー「スマイリングロード」を導入しました。安全運転をスコア化してフィードバックを行うことで、無事故への意識可視化に努めているほか、「トライ・ザ・セーフティ（広島県）」などの交通安全イベントに積極的に参加しています。

さらに、最新の法改正を即座に全社基準へ反映させ、高いレベルでのコンプライアンスの徹底と、定期的な安全研修の実施による無災害の継続を追求しています。



対話を通して信頼関係を築き、現場の異変がいち早く共有される環境を作っています。

地域を支え続けるためのBCP体制

大規模災害等の緊急事態に備え、BCP（事業継続計画）事務局による手順整備と「対応ハンドブック」の全社員への配布を行っています。また、ISO14001に基づいた「環境事故」を想定した訓練を年1回以上実施。定期的な見直しと実践的な訓練を通じて、有事の際も迅速に事業を継続し、環境保全と地域のインフラとしての貢献を両立できる体制を構築しています。

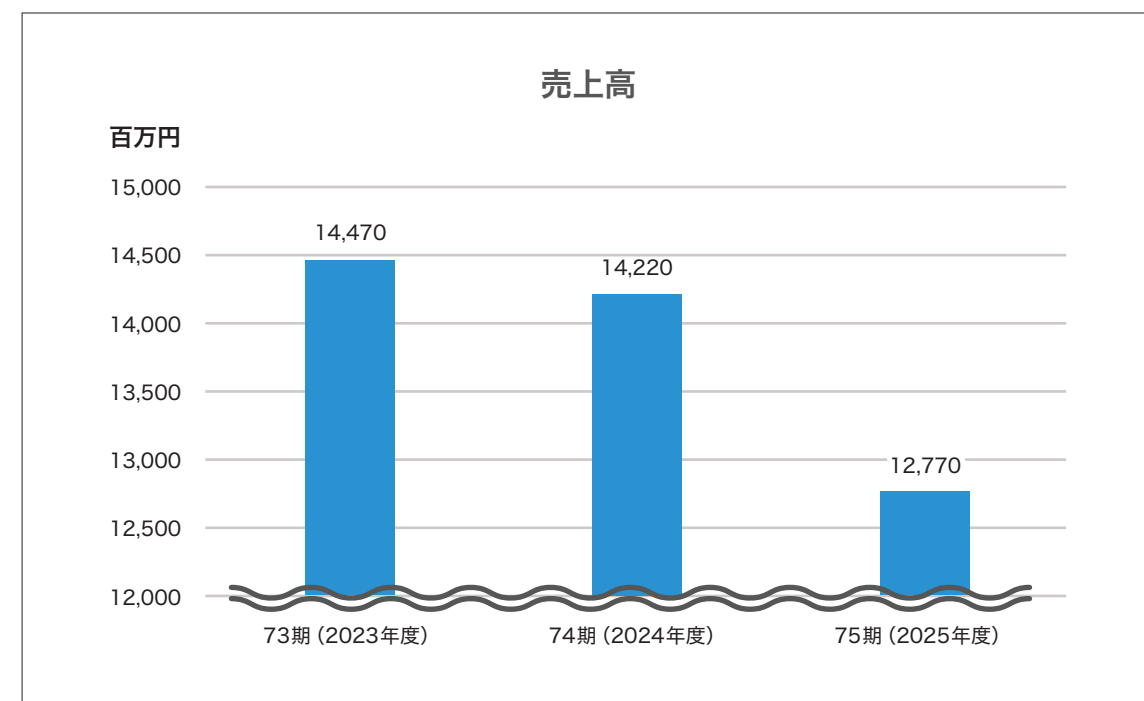
事業価値の向上と持続可能な財務基盤の確立

第75期 業績報告

第75期（2025年度）は、相場変動や仕入価格の高騰といった外部環境の急激な変化に直面するなか、安定した販売ルートの確保と品質管理の徹底により、お取引先さまとの信頼関係をさらに強めることができました。当期の業績は、市況の影響等により売上高は 127 億 7,000 万円（前期比 10.2% 減）の減収となったものの、各事業の連携強化と徹底した収益性の改善に努めた結果、経常利益は1.6億円（前期比56.8%増）となり、減収増益を達成。利益体質への転換を実現しました。

主要トピック

- 徹底した収益管理による「減収増益」の達成
- 事業構造の最適化と部門間連携の深化
- 次世代成長に向けた新中期経営計画の始動



各事業における収益体質の強化

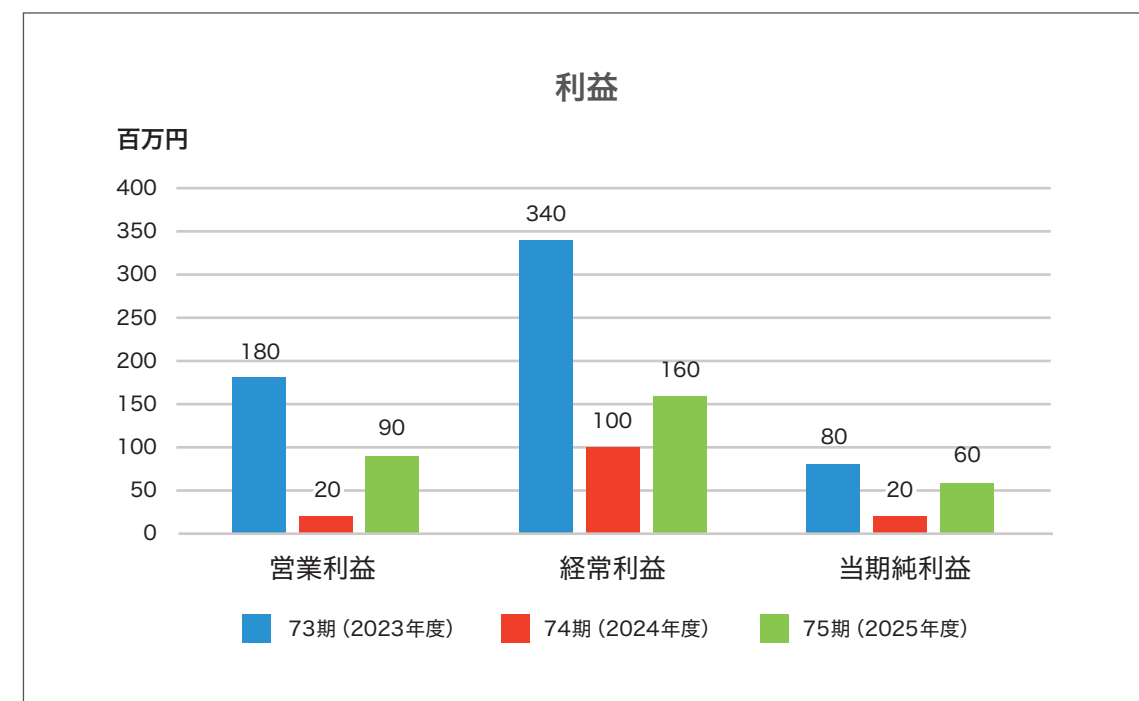
環境資源事業部では、組織内の技術連携と部門統合を推し進め、多様化するニーズに対するワンストップでの対応力を強化し、利益確保に注力しました。

生活環境事業部においても、市場動向に見合った適正な販売価格への見直しと営業体制の強化を行い、前年度を上回る売上・利益を計上しました。事業環境の変化に柔軟に適應することで、全社的な収益基盤は着実に底上げされています。

健全な財務基盤の維持と未来への投資

自己資本比率は 30% 前後を維持しており、金融機関をはじめとするステークホルダーの皆さまから信頼をいただける健全な財務基盤を保持しています。当期における増益の達成は、将来の持続的な成長に向けた投資余力の着実な積み上げを意味するものです。

今後は、第 76 期（2026 年度）より始動した新たな 5 ヶ年中長期経営計画に基づき、AI・DX を活用した業務効率化や次世代の人材育成、環境規制への対応に注力します。強固な財務基盤を礎に、社会的価値と経済的価値を両立させ、さらなる企業価値の向上に取り組んでまいります。



環境データ事業価値の向上と持続可能な財務基盤の確立

2025年度のCO2排出量は1550t-CO2e※（うちScope1:1317t-CO2e、Scope2:233t-CO2e）でした。これにより、カーボンニュートラル2030年目標（2013年度比-46%）の数値を5年前倒しで達成することとなりました。今後は、より意欲的なSBT目標（1,053t-CO2e）の実現に向け、残る約500t-CO2eの削減に取り組んでまいります。

Scope1（直接排出）への取り組み

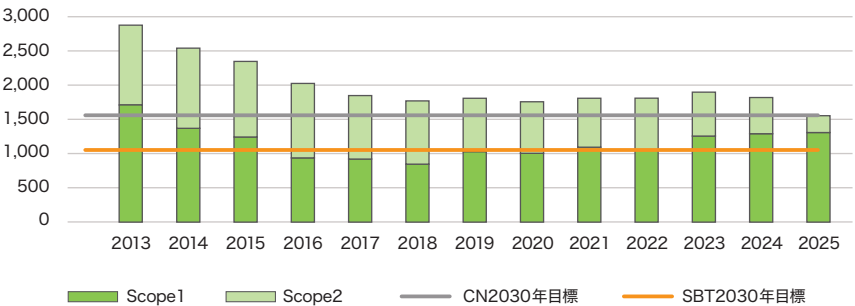
呉リサイクルセンターでバイオディーゼル燃料（RD）を導入しているほか、社用車のハイブリッド車への更新検討を進めるなど、燃料使用に伴う排出量の継続的な抑制に努めています。

さらに、2026年度からは太陽光発電設備の余剰電力でグリーン水素を創出する事業化調査（FS調査）を開始。実現すれば年間約4.6tのグリーン水素を製造できる見込みで、社内での燃料転換だけでなく、将来的には地域社会への供給も視野に入れています。

Scope2（間接排出）への取り組み

2023年度に本社および呉リサイクルセンターに自家消費型太陽光発電設備を設置したほか、2025年度から主要拠点においてCO2フリー電力を導入しました。これにより、2013年度から約80%の削減を実現しました。また、リニューアル中の東広島リサイクルセンターでも余剰買電型の太陽光発電設備を建設中で、2026年度から稼働予定です。

CO2排出量の推移



※t-CO2e あらゆる温室効果ガスの排出量を、地球温暖化への影響度をベースにCO2の量に換算した国際単位。当社の現状の算出対象はエネルギー起源のCO2のみ。



本社・呉リサイクルセンター屋上の太陽光発電設備

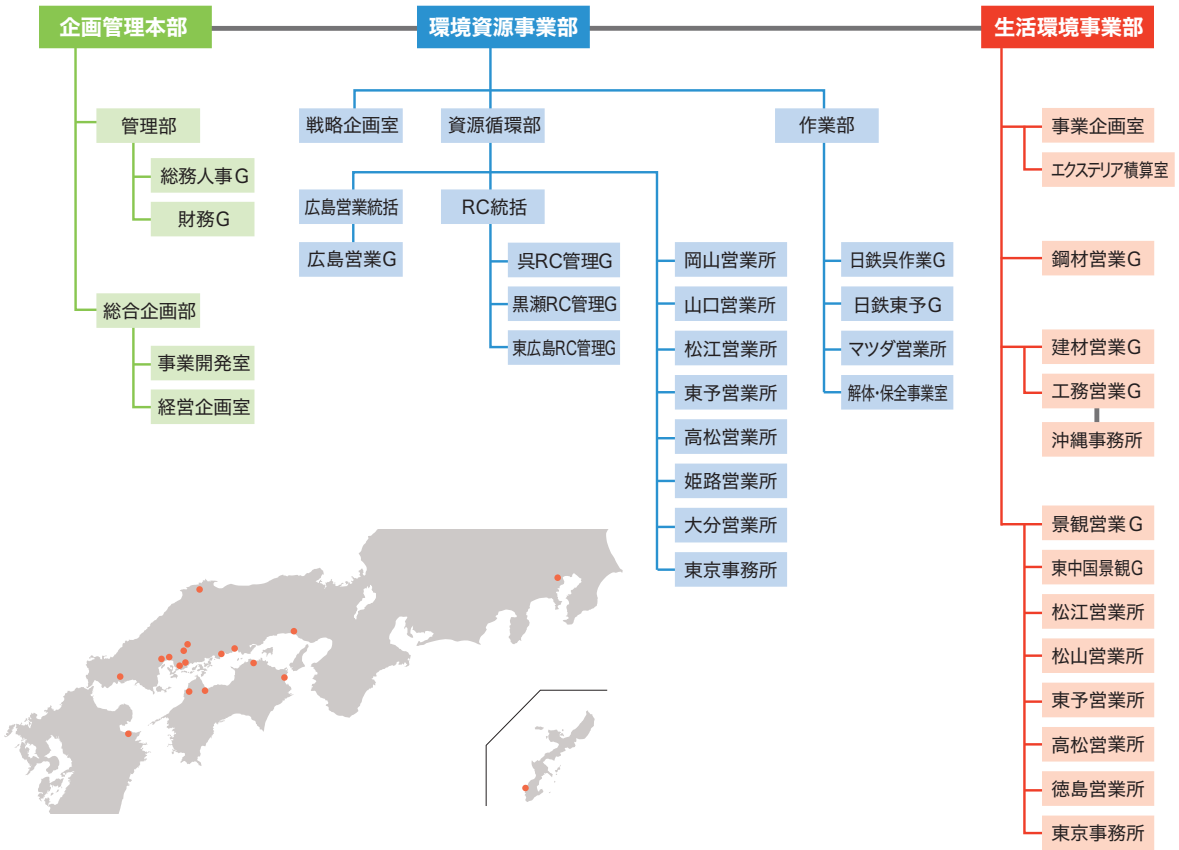


RDを使用したフォークリフト

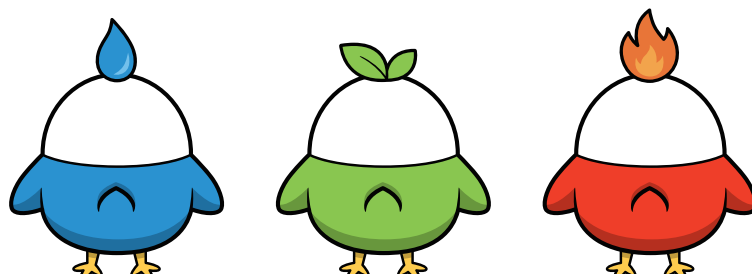
人的資本データ

カテゴリ	指標名	2023年度	2024年度	2025年度
基礎データ	総従業員数	284人	288人	272人
	（うち正規雇用）	（255人）	（260人）	（247人）
	男女別人数（正規）	男性211/女性44	男性214/女性46	男性201/女性46
	男女別人数（非正規）	男性26/女性3	男性25/女性3	男性22/女性3
仕事と家庭の両立	男性の育児休業取得率（正規雇用）	88%	100%	100%
	女性の育休復帰後就業継続率	100%	100%	100%
	有給休暇取得率（正規雇用）	77%	77%	77%
	平均法定時間外労働（休日出勤含む・法定休日除く）	データなし	16.5時間	17.4時間
定着と安定性	離職率（正規雇用）	5.0%	4.3%	5.4%
	平均勤続年数（正規雇用）	13.9年	14.2年	15.3年
成長支援と待遇	1人当たりの教育投資額（全体）	2万円	3万円	3万円
	平均年間給与（正規雇用）	540万円	540万円	560万円
健康と安全	健康・安全研修の総出席者数	570人	842人	1,109人
	労災認定件数	4件	1件	0件

組織図・ネットワーク図



かぎりあるものを、かぎりなく



株式会社 こっこー

本社 〒737-0134 広島県呉市広多賀谷1丁目9番30号

TEL (0823) 71-9191 / FAX (0823) 73-7017

URL <https://www.cocco-at.jp/>

「こっこー」についての
詳細はこちら！



公式WEBサイト

社員の声と想いを
お届け！



公式note

毎週水曜日に
更新中！



公式Instagram

最新の情報は
こちらから！



PR TIMES (活動報告)